

大語英文学會

康隆 竹井

らんちようぶんがくだいてん  
乱調文学大辞典

ついでやすたか  
筒井康隆



角川文庫 6316

昭和六十一年二月十日 初版発行

発行者——角川春樹

発行所——株式会社角川書店

東京都千代田区富士見二一十三—三

編集部(〇三)二三八—八四五—

電話 営業部(〇三)二三八—八五二—

〒一〇二 振替東京③一九五二〇八

印刷所——厚徳社 製本所——本間製本

装幀者——杉浦康平

落丁・乱丁本はお取替えいたします。

定価はカバーに明記してあります。

Printed in Japan

# 乱調文学大辞典

筒井康隆



角川文庫 6316



## 自序〔第一版〕

題名でおわかりの通り、これは文学辞典のパロディである。本当はこの序文も、辞典類の序文をパロディにしたかったのであるが、それはやめることにした。「乱調」の意味がわからぬままに、まっとうな文学辞典であると思いきんで買う読者があらわれることを恐れたためである。

まさか、とお思いであろう。ところが、いるのである。日本人には真面目まじめな人が多いとよくいうが、これは特に日本人に限ったことではないらしい。とにかく、真面目に文学を勉強しようと思し、真面目にこの本を買い、真面目に終りまで読み、「もしかするとこの本は、少しまぢがっているのではないだろうか」と、真面目に考えこむ人がいらっしゃるのである。それは、これを「小説現代」に連載中、真面目に誤りを指摘してくださる読者が多かったことでもわかるし、また巻末付録として収録した「あなたも流行作家になれる」をやはり「小説現代」に連載中、真面目な作家志望者から多くのお便りや原稿をいただいてうろたえたことから充分想像できるのである。

だいたい、書物の専門家たるべき本屋さんからして真面目な人が多いらしく、ぼくが以前に書いた「欠陥大百科」が辞典類の棚で「広辞苑」や「類語辞典」と並んでいた。(話はそれる

が、ぼくの本にかぎり、まっとうな位置に並んでいたためしがない。「筒井順慶」が歴史物の棚にあったのはまだよいとして、「心理学・社怪学」は社会科学の棚に、「アフリカの爆弾」に至っては戦記物の棚に収められていた)

真面目な人、ふざけたことが嫌いな人、笑わされると怒る人、書物に教養を求め人、文章には思想がなければならぬと思っている人、この本はそういう人たちには無縁のものである。右の範疇はんちゆうに入らぬ方のみ、この本をお読みいただきたい。

なお、本辞典の項目は七〇四ある。このうちの約十分の一ほどは、事実をそのまま書いた方が面白いと思つたため、特に茶化しもせず、パロディにもしなかつた。だから幾分かは事実も含まれているわけである。その項目にだけ、何か印を打とうかとも考えたが、むしろ本当のよううな嘘うそなのか、嘘のような本当なのかわからない方が面白いだろうと思つたため、一、二、「これは本当の話です」とことわり書きをした他は、そのままにしておいた。事実なのかパロディなのかを調べてごらんになるのも一興だろう。(そんな暇な人はあまりいないだろうが) くり返して申しあげる。これはパロディである。次の「凡例」から、もうさっそくパロディなのである。故に、本文中の誤りまちがひについては、著者は何の責任も持たぬことをここにはつきりおことわりしておく次第である。

昭和四十六年十一月

目次

自序

乱調文学大辞典

卷末付録 あなたも流行作家になれる

あとがき

解説

中村誠一

3

7

117

209

210

## 凡例

一、この辞典は文学辞典であるが、必要に応じて美術、哲学、歴史、芸能などのジャンルの事項も混え、時には文学と全く無関係のものも収録した。(例▽バーベキューの一種であるモンテスキュー。叩き大工の一種であるアップダイク、等)

二、固有名詞は人名、書名、店名、曲名にまで及ぶが、現存する人名、店名などの記載内容についての責任は、すべて講談社編集部が負う。(はずである)

三、外来語は原則として、説明の前に直訳語を記した。(例▽スカイラーク||美空ひばり)

## 五十音索引

ん	わ	ら	や	ま	は	な	た	さ	か	あ
114	114	110	106	99	86	79	64	48	26	9
	り		み	ひ	に	ち	し	き	い	
	111		102	88	82	68	53	32	14	
	る	ゆ	む	ふ	ぬ	つ	す	く	う	
	112	107	103	92	84	70	57	35	17	
	れ		め	へ	ね	て	せ	け	え	
	112		103	96	84	72	59	40	20	
	ろ	よ	も	ほ	の	と	そ	こ	お	
	113	109	104	97	84	75	61	44	22	

乱調文学大辞典



# あ

**あいしよーか**【愛書家】 本を愛している人。

こういう人に愛された本はいい迷惑で、たいていボロボロになる。汚いものがべったり附着しているため、古本屋へ持っていても二束三文である。フェティシズム（節片淫乱症）の一種。

**アイデア** ①理想。②着想。③前記ふたつ

の意味を結びつけたものが、文学におけるアイデアであって、即ち、着想はいいのだが、書いているうちに、理想とするところから次第にはなれていき、駄作となること。

**あいどくーしゃ**【愛読者】 自分の読者を愛

すること。転じて、「あなたの作品を愛読してます」といって作家の家へやってきた女子高校生を誘惑すること。愛讀者（あいぞくしゃ）というのは、オナニーの好きな一部の作家のこと。

**アイロニー** 昔、イギリスにジョージ・ゴ

ードン・アイロンという詩人がいた。この詩人は無知であったため、さまざまな間違った言辞を弄（ろう）した。無知な読者は、これを間違いと思わず、優れた反語、または皮肉であるといって絶讚（ぜつさん）した。ここからアイロニーなることばが生れた。現在でも、たまに優れた反語や皮肉が書かれていた場合、それは作家の無知によるまちがいであることが多い。

アヴァン・ギャルド 前時代的な芸術運動。

アウトサイダー 密造の清涼飲料水。

あおいへや【青い部屋】 作

家戸川昌子の姉君が経営するスナック。広告代よこせ。



あかしんぶん【赤新聞】 す

っぱ抜きやスキャンダル記事を主とする低級な新聞のこと。「赤旗」(日本共産党の機関紙)のことではない。

あかぞめえもん【赤染衛門】 三十六歌仙のひとり。柿右衛門の妻。

アガペー ギリシャ語で、神の愛のこと。

即ち神が罪人たる人間に対して向けるあかんべえのこと。

あかほん【赤本】 ①江戸時代の草双紙で、子供向きのもの。②極彩色の表紙の少年向け講談本。③俗受けを狙った粗雑な本。④「少年マガジン」のことに非ず。

あきゆうせいいでん【阿Q正伝】 わたし日雇い労働者の阿Qあるよ。わたしのこと馬鹿する承知しないよ。民族的革命的英雄あるぞ。尊敬するよろし。当世紅衛兵ペケあるな。ほこぺん、わたしのために清朝の封建社会ぶつつぶれて、魯迅先生有名になったのことある。

あくたがわりゅうのすけ【芥川龍之介】 作家。明治二十五年に、生後九か月で誕

生した。母親が発狂したことは有名であるが、一説によれば父親は河童であったともいう。彼は生涯、羅生門らしやうもんに住んだ。

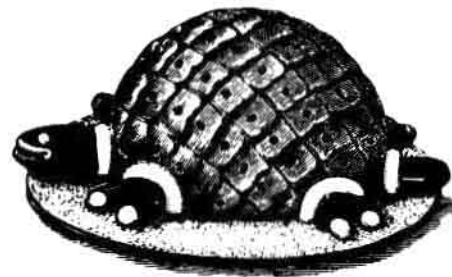
後進の作家のために芥川賞を作り、それを蜘蛛くもの糸の先にぶらさげ、糸をよじ登ってくる作家がたくさんいると、その糸を鉄はさまでちよん切って墜落させ、喜んでいた。昭和二年、彼は致死量の睡眠薬を飲んで病死した。

**あけがらす【明烏】** 新内「明烏夢の泡雪」の通称。エロなカラスが夜明けがたに興奮して女郎買いに行くさまを描写した名曲。

**アジテーションぶんがく【アジテーション文学】** アジ文学ともいう。煽動せんどうする文学のことで、アジびらの長篇ちやうへんと思えば

よい。アジびらは一度鼻をかめばおしまいたが、これは枕まくらにもなる。

**アナぶんがく【アナ文学】** ①アナーキズム文学の略。②アナウンサー文学の略。③アナクロニズム文学の略。④穴を描いた文学。



**アブストラクト** 抽象芸術。ものぐさなアート。手を抜いた芸術。

**アベレージ** 野球、ボーリング等における打率のことであるが、作家仲間の隠語では、作品の質の平均をいう。「あいつ、アベレージがあがった」などという。最

近では、作家が自分のアベレージをあげるため、短いものをたくさん書かず、なるべく百枚、二百枚の中篇で勝負しようとする場合に、よくこのことばが用いられる。

**アポリネール** フランスの作家。詩の文字の配列によって図案を書いたりしたが、その図案のひとつが偶然にもアルコールの化学式になっていたため、アルコールが発見された。

**アマチュアーさっか** 【アマチュア作家】 締切りや制限枚数なしに原稿が書けるといふ幸運な作家。

**あめのこやねのみこと** 【天児屋根命】 作家の先祖。

**アラビアン・ナイト** アラビア夜話、千一夜物語、千一夜物語など、さまざまに呼ばれている。世界最大最長のエロチックな物語で、これに匹敵する長さのものはまだ日本の失神派作家でさえ書いていない。この完訳を中学時代に全巻読破したことを筆者は今でも誇りに思っている。だからこそ、これだけ利口になれたのである。もっともある人にいわせれば、だからこそ馬鹿になったという。

**アララギ** 大正、昭和を通じて歌壇の主流であった短歌雑誌。喧嘩けんか・内ゲバが多かったことは有名で、最初は「馬酔木あしび」の伊藤左千夫と「アカネ」の三井甲之による喧嘩によって明治四十一年にこの雑誌が生れ、次は伊藤左千夫に、斎藤茂吉と

島木赤彦が叛旗をひるがえし、大正二年、長塚節がこの雑誌を批判したのをはじめ、六、七年ごろには歌壇全体の批判と真に向から対立、やがて閉鎖的な島木赤彦に折口信夫たちが反抗して脱退し、そして「アララギ」打倒を叫ぶ五島茂らと斎藤茂吉の間に大論争が展開される。

まったく、こと短歌に限らず、同人雑誌・専門雑誌に喧嘩・内ゲバの絶えぬこととはよくご承知の通り。これにまきこまれまいとするのは容易ではないよ。

**アリストファネス** アリストテレスの息子で、アリスチッポスやアリスタルコスの父であるが、すべての喜劇作家の先祖でもある。

ありわらーのーなりひら【在原業平】在原

業平と筒井康隆の類似性は、意あまっても力足りずという点に集約される。他にもっと似ている点もあるといってくれる女の子がいるけど、それでは筒井康隆が可哀そうである。

**アルチザン** 技術の優秀な芸術家のこと。

技術を持たぬ芸術家はアーチストと呼ぶ。

**アングジユマン** 拘束、かかわりの意味であるが、社会に参加する文学的態度について言われる。首を縄で拘束されたり、警察にかかわりあう結果が多いからである。

**アンコール** 評判がよいためにもう一度登場すること。小説の場合は同じことを二度書けないため、結局は二番煎じせんになり、

アンコールが度重なれば次第に骨だけとなり、最後にはばらばらになって死ぬ。ひとごとではない。

アンソロジー 筒井康隆のアンソロジー「異形の白昼」「12のアップルパイ」のあとがきを見よ。(PRに非ず)

アンタレス さそり座の首星で、赤色巨星。SFでは常に悪いやつに住んでいる星。但し共産圏のSFでは常にいい星。

アンチ・クライマックス 漸降法と呼ばれる修辞法の技術だが、さまざまなジャンルに応用される。漸降曲線は、男性はおむね急、女性はゆるやかである。

アンチ・ロマン 反小説。既成の小説を否

定した小説。その理想とするところは、当然読者がひとりもないことであろう。

い

いくしまーじろ

う【生島治

郎】作家。

父は生島新五

郎。母は絵島

兄の太郎氏は

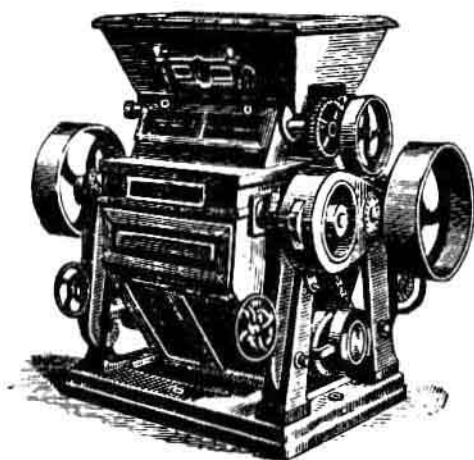
編集者。一時、

ゆですぎた卵

にあたって、

たいへん瘦やせて

いた。



いしかわーたくぼく【石川啄木】 詩人。歌

人。日本短歌史上不朽の大家作家である。彼は中学時代にカンニングをし、二回も発覚したという。発覚したのが二回だから、実際はもっとやっているとある。しかし筆者などは発覚した回数が少くとも五回以上なのだから、ほんとは啄木より偉くなれる筈である。

イソップ ギリシャの動物寓話作家。彼は、民衆に向かって直接話しかけ、物語っただけであって、文字にはしなかったという。イソップの創作として文章にしたのは別の人である。したがってイソップは、口述筆記をやっている現在の流行作家の祖ということになる。小説がカセット・テープになる時代なら、彼はおそらく大

活躍していたことだろう。

イツヒ・ロマン 作中の主人公が自らの体験や運命を物語る形式の小説。日本の私小説と形式的には似ているが、片や波瀾万丈、片や心境のモノローグ、外国と日本の作家の行動半径、実行力の違いは大きい。イツヒツヒ。

いながきーたるほ【稲垣足穂】 作家。画家。天文学者。アルコール中毒者。ニコチン中毒者。飛行家。無頼漢。毒舌家。自動車の運転手。星を造る人。キタ・マキニカリス。ゲエ・ギムギガム・ブルルル・ギムゲム。彼のユリーカはシバの女王から去って櫓の上にもったバリタザールと共に第三半球の研究に耽る。渾天儀、窺管、象限儀によってA感覚とV感覚の